石巻に広がる交流の輪

――清掃活動や専大まつり開催――

専大まつりで子どもたちと玉入れを楽しむ＝石巻専大

仮設住宅で除草作業に励む学生たち

専修大学の力を石巻へ届けよう――。専大生と教職員が宮城県石巻市を訪れ、地域の現状を学び復興活動を支援し、子どもたちと触れ合う「東日本大震災夏期石巻交流活動」が8月7日から10日まで実施された。石巻専修大学を拠点に、仮設団地の清掃作業を行ったほか、「専大まつり」を開催して子どもたちと夏の一日を楽しんだ。

専修大学ボランティア推進委員会主催。震災が発生した2011年から毎年訪問している。今年は2年次生を中心に1年次から4年次生まで37人が参加した。

石巻仮設南境第4団地では共有部分の除草作業や清掃を行った。石巻では復興住宅への転居が進み、仮設住宅の入居者は訪問を始めた当初の半分以下になっている。学生たちは住民と言葉を交わしながら作業に汗した。

4回目となる「専大まつり」には地元の小学生約60人が参加。顔見知りの子どもたちも多く、再会を喜んだ。午前中は工作、午後からはミニ運動会を開催。大学生と小学生とがペアを組んでのリレーや玉入れなどで、にぎやかな時間を過ごした。

2年ぶり3回目の参加の福島誠也さん（法4）は「自分たちの力は小さいけれど、復興に向けて少しは役立てたのかと思う。交流活動では人とのつながりの大切さを学んだ。これからも石巻に心を寄り添わせ、アンテナショップで買い物するなど小さな支援を続けたい」と話した。

訪問初日には、地元のボランティア団体代表から被災当時の様子などを伺った。

最終日、SKV（専修神田ボランティア）は昨年の学園祭「神田鳳祭」での模擬店販売などで得た収益金5万円を石巻市教育委員会に寄付した。「石巻の子どもたちの教育に役立ててほしい」と毎年寄付しており3回目。SKV代表の加藤由樹さん（法2）と副代表の伊達航志さん（法2）が阿藤正道学生部長とともに石巻市教育委員会を訪れ、境直彦教育長に寄付金を手渡した。

寄付金を手渡すSKVの加藤代表（中央）と伊達副代表（右）

経済学検定試験 4連覇

経済学の習得度と応用力を客観的に判断する経済学検定試験（ERE、特定非営利活動法人日本経済学教育協会主催）ミクロ・マクロ大学対抗戦で専大チームが4連覇を果たした。9月5日には主催者を代表して西村和雄同協会長（京都大学名誉教授）が神田キャンパスを訪れ、表彰状を贈った。

4連覇を果たしたメンバーら

EREは年2回開催。大学対抗戦はミクロ経済学、マクロ経済学が対象で各チーム上位成績者4人の合計点で順位を決める。

7月に実施された25回大会には全国8校14チーム100人が参加。専修大学からはエクステンションセンター主催の公務員試験講座から3チームが参戦し、このうち経済学部、経営学部、商学部、人間科学部の2、3年次生9人でつくる経済学検定演習講座Aチームが優勝を果たした。

エクステンションセンターでは試験の1カ月ほど前から対策を強化。問題演習を繰り返し解き、学生同士で教えあうことで実力を高めてきた。

本学を訪れ健闘をたたえた西村会長は「EREを土台に公務員試験合格を目指してほしい」と激励した。

チームの中で最高点を収め、大学対抗戦参加者の個人成績で2位となった久保田尚樹さん（経済3）は「4連覇を達成できたことは自信につながる。さらに勉強を頑張りたい」と意気込みをみせた。

司会や演奏 学生が担当

日本経営学会懇親会

司会を務めた高井さん

日本経営学会第90回大会（実行委員長・馬場杉夫経営学部教授）が9月1日から3日まで、神田キャンパスで開催され、経営学部の教員、学生らが準備や運営に尽力した。懇親会では、本学の学生が司会や演奏で全国から集まった研究者らをもてなした。

2日に都内のホテルで行われた懇親会では、アナウンサー講座（就職課主催）受講生の高井静さん（文4）が司会を担当。笑顔を絶やさず、落ち着いた口調で進行し、「90年を誇る学会の歴史に携わることができて光栄です」と話した。

懇親会に花を添えたのはスウィングジャズ研究会だ。大会事務局長の福原康司准教授のゼミ生も所属するレギュラーバンド18人が3曲を披露。研究者らの歓談を盛り上げるのに一役買っていた。

バンドをまとめた長澤花野子さん（経営3）は「ジャズを知らない人も楽しめる、和やかで明るい選曲にしました。大勢の前で楽しく演奏でき、いい経験になりました」と振り返った。

スウィングジャズ研究会は鳳祭（11月3～6日、生田キャンパス）でジャズ喫茶を、12月10日には新宿サムディ（東京都新宿区）でリサイタルを開催する。

スウィングジャズ研究会の演奏が会を盛り上げた

経済学部 徳田ゼミ

小田急電鉄と連携イベント

経済学部の徳田賢二ゼミは、学外の団体・企業と連携し、さまざまなイベントの企画運営に取り組んでいる。

8月13日には、小田急電鉄との産学連携イベント「夏のエルミロード探検」を新百合ケ丘駅前の商業施設・小田急新百合ケ丘エルミロード館内で実施した。このイベントは館内4カ所のチェックポイントを巡る親子向けのクイズラリー。延べ約300人が参加する盛況ぶりだった。

小田急電鉄は経済学部で毎年、寄付講座を展開しており、徳田賢二教授がコーディネーターを担当。その縁で、徳田ゼミが今回のイベントに携わることとなった。ゼミは4月から、企業側と何度も打ち合わせを重ね企画を立案、準備を進めてきた。

当日は3、4年次生10人が受付などを担当。長谷川陽規さん（3年次）は「ゼミで学んだ知識や伝える力など実践することができた。企業の方と一緒に、大勢を対象としたイベントを成功させたことは今後の自信につながる」と話した。

ゴール地点で〝お宝〟を手にする子どもたち

徳田ゼミでは、長沢商店会（川崎市多摩区）の交流スペース「長沢ひろば」を活用した活動にも取り組んでいる。同商店会開催の「長沢商店会ハロウィン」（10月22日）、「長沢クリスマス」（12月末）などで、子どもたちや地域の方々が楽しめる企画を予定している。

子ども縁日にSKVが参加

8月27日、神田キャンパス近くで開かれた神田神保町3丁目商店会の子ども縁日に、SKV（専修神田ボランティア）12人が参加した。

当日はあいにく小雨まじりの天気だったが、近隣の子どもらが多数訪れた。SKVメンバーは設営や、担当する流……子どもたちを流しそうめんでもてなす

しそうめんの準備に大忙し。子どもたちの夏休み最後の週末を盛り上げた。佐々木柾嵩さん（法2）は「地域の方と協力して祭りを盛り上げることができた。子どもたちの笑顔が見られて良かった」と話す。

また同20日、同じく神田キャンパス近くの西神田児童センターで開かれた「異世代ふれあい交流会」でも運営に協力。さまざまな世代の利用者が活動を発表し、盆踊りやゲームで交流した。設営を7人が手伝った。